

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
国立大学法人 金沢大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人金沢大学	特別支援学校	知的障害	かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくがくるいふぞくとくべつ 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別 しえんがっこう 支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 7 月	知的障害児における「主体的な学習」、「対話的な学習」の全教職員における定義づけと理解学習。各学部の授業づくり開始	計画通り実施した。
平成 30 年 8 月	知的障害児における「主体的な学習」、「対話的な学習」の理解促進のための研究フォーラムの実施 (講師：関西学院大学 菅原伸康教授)	計画通り実施した。「主体的な学習」、「対話的な学習」の理解促進が行われた。
平成 30 年 9 月～11 月	地域・人などの関わりを通じた、知的障害児の「主体的・対話的な学習」の授業実践開始及び研究授業開始	計画通り実施した。
平成 30 年 12 月	「新学習指導要領で求められる特別支援学校の教科別の指導と各教科等を合わせた指導」という講演内容で行われた。 (講師：金城大学 佐伯英明教授)	計画通り実施した。
平成 31 年 2 月	実践研究結果の全国発信のため、教育研究会の実施、紀要の作成及び全国配布、ポスターセッションの実施	計画通り実施した。
平成 31 年 2 月	知的障害児における「主体的な学習」、「対話的な学習」で深い学びの実現に関する講演 (講師：明星大学 明官 茂教授)	計画通り実施した。

平成 31 年 3 月	知的障害児における「主体的な学習」、「対話的な学習」、「深い学び」の全教職員における定義づけと理解促進のための講演（講師：関西学院大学菅原伸康教授）	計画通り実施した。
-------------	--	-----------

(2) 研究課題

地域社会との関わりを通して、知的障害児が主体的で対話的な深い学びを育む授業づくりの学習体系を探求する。

(3) 研究の概要

本研究では、社会との接続を意識し、子供たちが社会的・職業的自立に向けた主体的・対話的で深い学びの実現を目指し実施した。具体的には以下の通りである。

- (1) 知的障害のある児童生徒にとって「主体的な学び」「対話的な学び」がどのような児童生徒の姿を示すのかを本校独自に解釈を行い、全職員で認識し、それに基づき学校主題等を決め授業実践を行った。
- (2) 「主体的な学び」「対話的な学び」の本校独自の解釈をもとに「何ができるようになるか」＝本校における「つきたい力」という定義のもとで各学部（発達段階）の育成を目指す資質・能力を決め、授業づくりを行った。
- (3) 本校のキャリア教育実践研究で得た知見「なぜ」「何のために」「何を」「どう学ぶ」という観点を大切にし、更に知的障害児が地域・人・ものなどの関わりを通して「わかる」こと「学ぶ」ことの楽しさや伝え合う喜びを育む授業づくりの実践研究を行った。
- (4) 授業づくりにおいては、教育のまとまりを大切にすることを念頭に置き、単元学習指導案を作成し、単元を学習した際の評価規準の設定やPDCAサイクルの実施を行った。また、指導内容のポイントを明確にするために「教科等特徴シート」、授業の振り返りとPDCAを確実にを行うために「授業アセスメントシート」という本校独自の授業づくりシートを作成し、授業づくりや授業実施後の振り返りの際に使用することにした。

(4) 研究の成果

本研究において明らかになったことを以下に示す。

- (1) 「主体的な学び」「対話的な学び」を本校独自に定義付けを行った。その結果、授業づくりの際の「学び方」を構築する観点が明確になった。更に「地域・人との関わり」を重視するという観点が加わることで全教員が主体的・対話的な学びを育む授業実践が可能となった。
- (2) 各学部で児童生徒の「つきたい力」を設定した。そうすることで、児童生徒の学習目標が明確になり、この力をつけるにはどのような授業づくりが必要であるかという点を重点的に教員が指導及び支援できるようになった。
- (3) 本校のキャリア教育実践研究で得た知見を大切にし、児童生徒が地域・人との関わりを通して学ぶことの楽しさや伝え合う喜びを育む授業づくりを行った。その結果、地域・人との関わりを通じた学習（交流及び共同学習、地域学校協働学習）が各学部において意識的に計画、展開された。
- (4) 単元学習指導案の作成、PDCAサイクルの徹底、授業づくりの視覚化を行った。これにより児童生徒の「つきたい力」を育成するための授業づくりを計画及び実施することが可能となった。また、「教

科等特徴シート」と「授業アセスメントシート」を本校独自に作成し、使用したことで各教員の授業ノウハウの共有化、さらに各授業内容の精選化、焦点化、PDCAサイクル実施の徹底が可能となった。

(5) 課題と今後の方策

今年度は、地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさ伝え合う喜びを育む授業づくりを学校主題とし授業実践を行ってきた。授業づくりでは「教科等特徴シート」「授業アセスメントシート」を使い実施することで児童生徒が主体的・対話的な学びを育む授業づくりが行える可能性が見えてきた。特に今年度は児童生徒が授業において主体的・対話的な学びを育むために「やってみたい」「学びたい」という情意的側面を高める授業実践を重点的に行ってきた。その理由は、児童生徒が学習に取り組むための根幹であるからである。しかしながら、地域・人との関わりを通じた学習を展開する場合、情意的側面を高める授業実践に加えて、基本的でかつ生活に根付いた「知識・技能」である認知的能力を獲得するための授業実践も必要である。これらの能力がバランスよく育む授業づくりこそが重要であり、本校の次の課題といえる。その対策として、まずは「知識・技能」である各教科の指導内容の精選を行うことが重要となる。発達段階において児童生徒が「何を・どの程度学ぶのか」について各教科の内容を精選する必要がある、その部分を「教科等特徴シート」を使って進めていくことにする。また、「どのように学ぶのか」については、各教科の内容を「合わせた指導」「総合的な学習の時間」等によって生活に根ざした体験を通して児童生徒が学ぶようにする。以上のように情意的側面を高める事と認知的能力を高める事をバランスよく児童生徒が学ぶことで、主体的で対話的な深い学びが可能になると思われる。